

多文化共生についてのアンケート結果

本県には、41,475人の外国人が住んでいます。(令和6年 12 月末現在:住民基本台帳人口)総人口に占める外国人住民の割合は 2.95%で、県民の約 34 人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第3次改定版)を策定し、「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などのちがいにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民との関わりの現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期:令和7年6月

★対象者:県政モニター300人

★回答数:238 人 (回収率 79.3%)

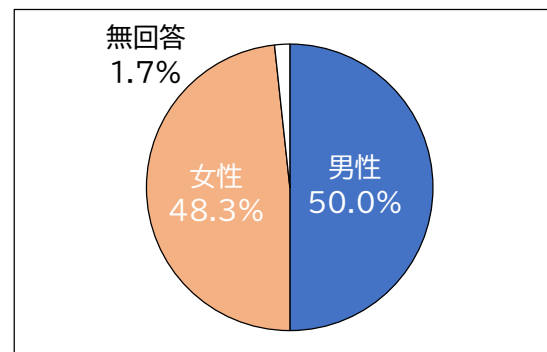
★担当課:総合企画部 国際課

(※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。)

【属性】

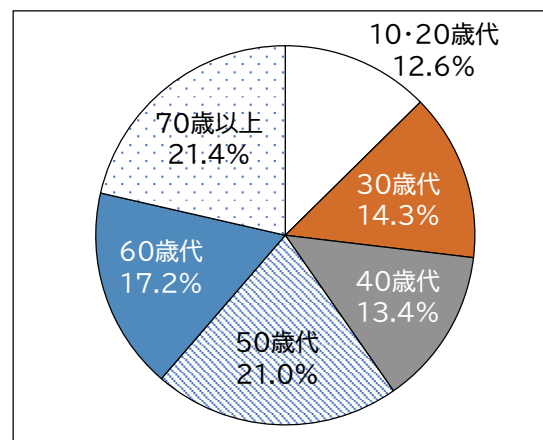
◆性別

項 目	人数(人)	割合(%)
男性	119	50.0%
女性	115	48.3%
無回答	4	1.7%
合計	238	100.0%



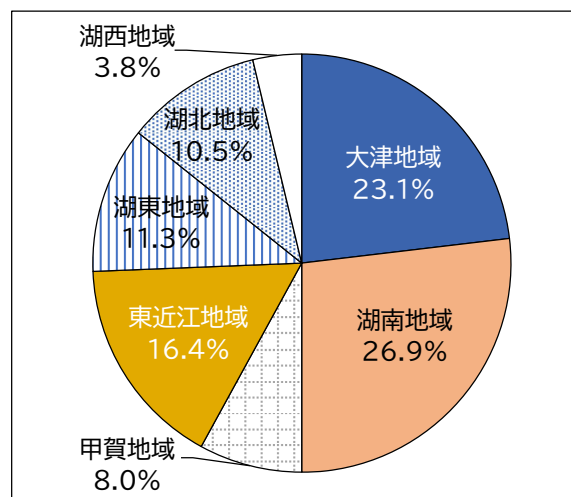
◆年代

項 目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	30	12.6
30歳代	34	14.3
40歳代	32	13.4
50歳代	50	21.0
60歳代	41	17.2
70歳以上	51	21.4
合計	238	100.0



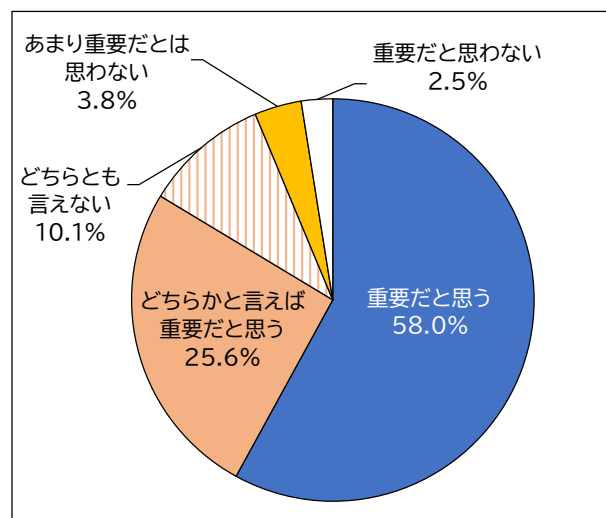
◆地域

項 目	人数(人)	割合(%)
大津地域	55	23.1
湖南地域	64	26.9
甲賀地域	19	8.0
東近江地域	39	16.4
湖東地域	27	11.3
湖北地域	25	10.5
湖西地域	9	3.8
合計	238	100.0



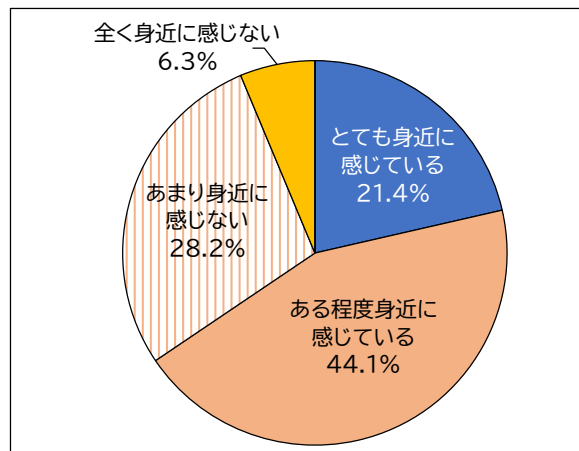
問1 「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現について、あなたはどのように思いますか。
(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	138	58.0
どちらかと言えば重要だと思う	61	25.6
どちらとも言えない	24	10.1
あまり重要だとは思わない	9	3.8
重要だと思わない	6	2.5
合計	238	100.0



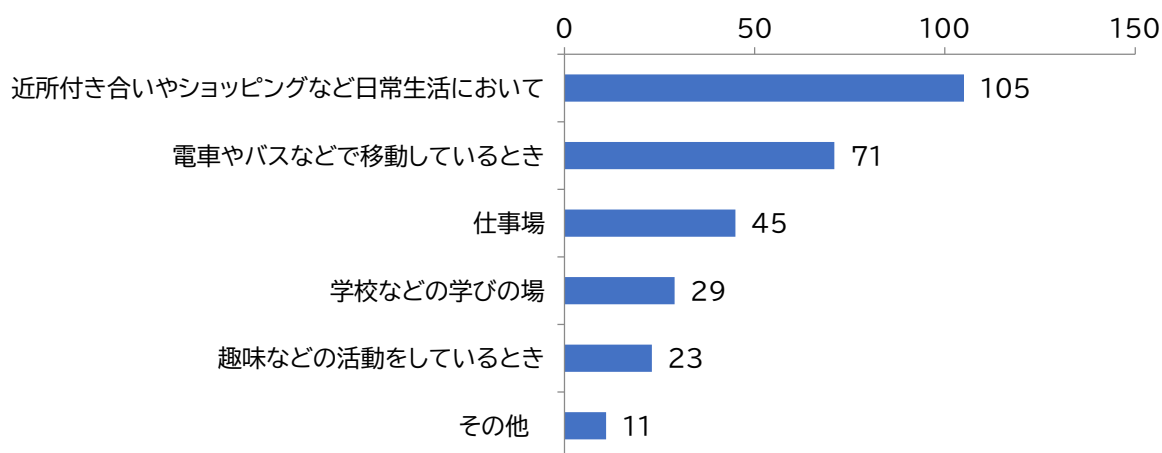
問2 あなたは、普段生活をしていて、県内に在住する外国人(以下、「外国人県民」という。)の存在を身近に感じますか。次の中から当てはまるものを選択してください。(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
とても身近に感じている	51	21.4
ある程度身近に感じている	105	44.1
あまり身近に感じない	67	28.2
全く身近に感じない	15	6.3
わからない	0	0.0
合計	238	100.0



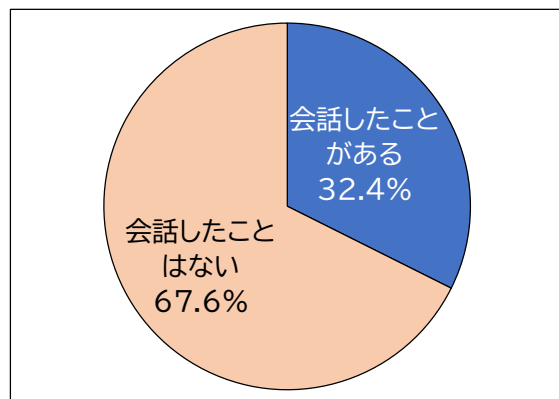
問3 問2で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方におたずねします。どのような場面で外国人県民の存在を身近に感じますか。
(回答チェックはいくつでも。 n=156)

項 目	人数(人)	割合(%)
近所付き合いやショッピングなど日常生活において	105	67.3
電車やバスなどで移動しているとき	71	45.5
仕事場	45	28.8
学校などの学びの場	29	18.6
趣味などの活動をしているとき	23	14.7
その他	11	7.1



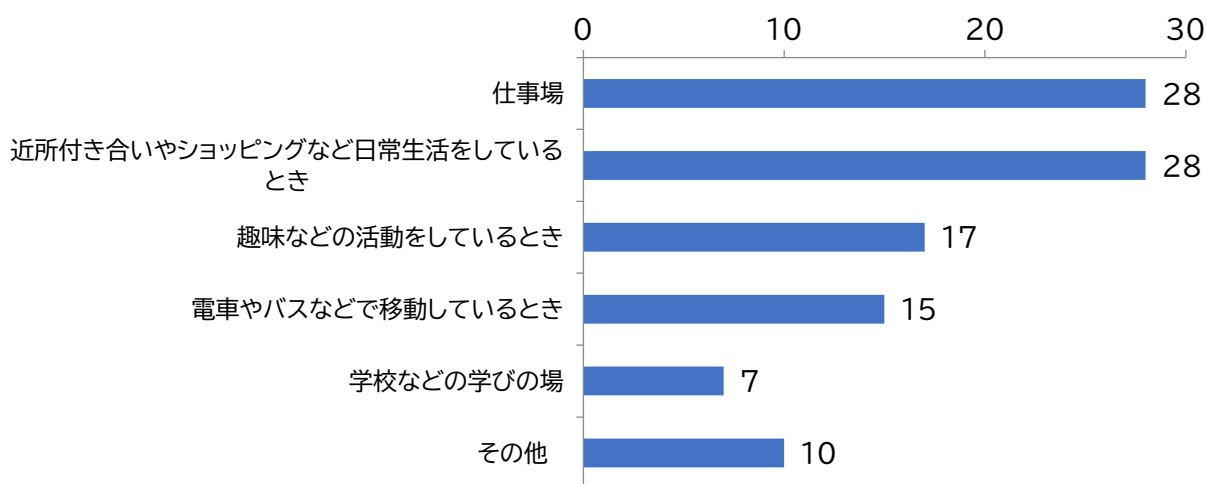
問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。
(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
会話したことがある	77	32.4
会話したことはない	161	67.6
合計	238	100.0



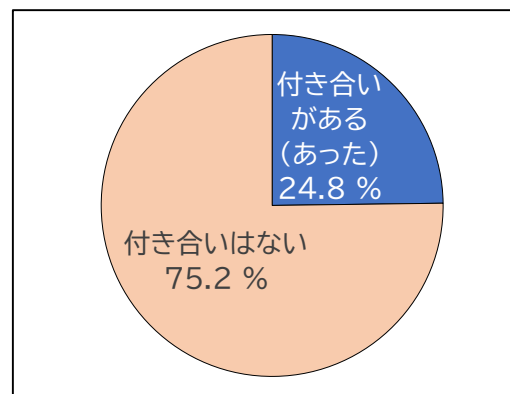
問5 問4で「会話したことがある」を選択された方におたずねします。
どのような場面で会話しましたか。(回答チェックはいくつでも n=77)

項 目	人数(人)	割合(%)
仕事場	28	36.4
近所付き合いやショッピングなど日常生活をしているとき	28	36.4
趣味などの活動をしているとき	17	22.1
電車やバスなどで移動しているとき	15	19.5
学校などの学びの場	7	9.1
その他	10	13.0



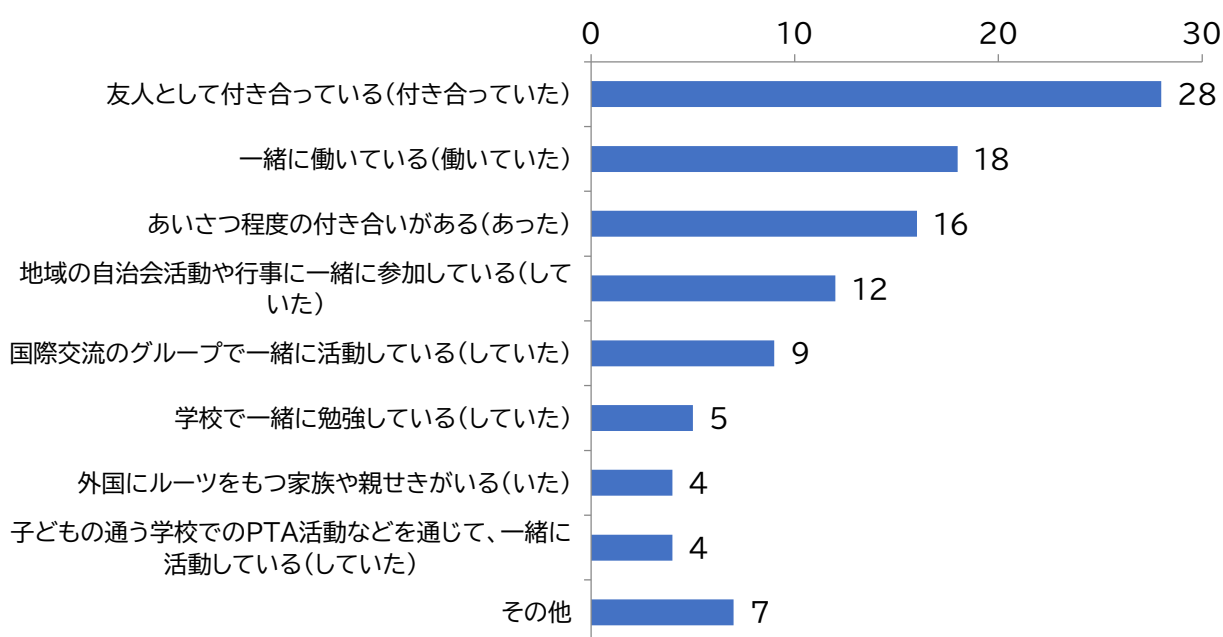
問6 あなたは外国人県民との付き合いがありますか。
(過去の経験を含む)(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
付き合いがある(あった)	59	24.8
付き合いはない	179	75.2
合計	238	100.0



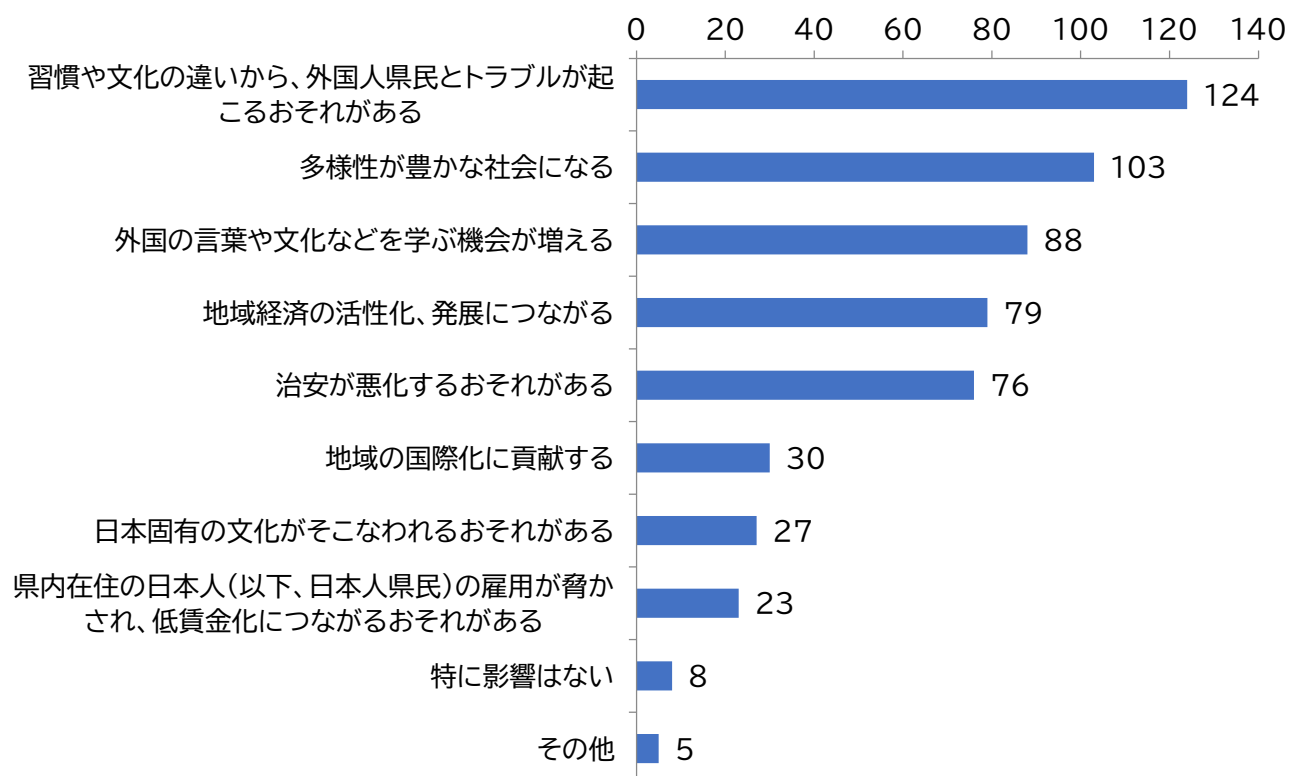
問7 「付き合いがある(あった)」を選択された方におたずねします。あなたは外国人県民とどのような付き合いがありますか。(過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。 n=59)

項 目	人数(人)	割合(%)
友人として付き合いしている(付き合いしていた)	28	47.5
一緒に働いている(働いていた)	18	30.5
あいさつ程度の付き合いがある(あった)	16	27.1
地域の自治会活動や行事と一緒に参加している(していた)	12	20.3
国際交流のグループと一緒に活動している(していた)	9	15.3
学校で一緒に勉強している(していた)	5	8.5
外国にルーツをもつ家族や親せきがいる(いた)	4	6.8
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	4	6.8
その他	7	11.9



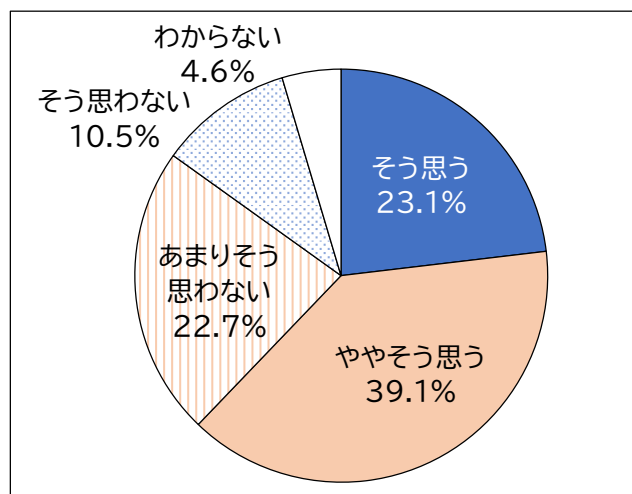
問8 あなたは、外国人県民が地域社会に増えることについてどう思いますか。
 (「特に影響はない」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。 n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
習慣や文化の違いから、外国人県民とトラブルが起 こるおそれがある	124	52.1
多様性が豊かな社会になる	103	43.3
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	88	37.0
地域経済の活性化、発展につながる	79	33.2
治安が悪化するおそれがある	76	31.9
地域の国際化に貢献する	30	12.6
日本固有の文化がそこなわれるおそれがある	27	11.3
県内在住の日本人(以下、日本人県民)の雇用が脅か され、低賃金化につながるおそれがある	23	9.7
特に影響はない	8	3.4
その他	5	2.1



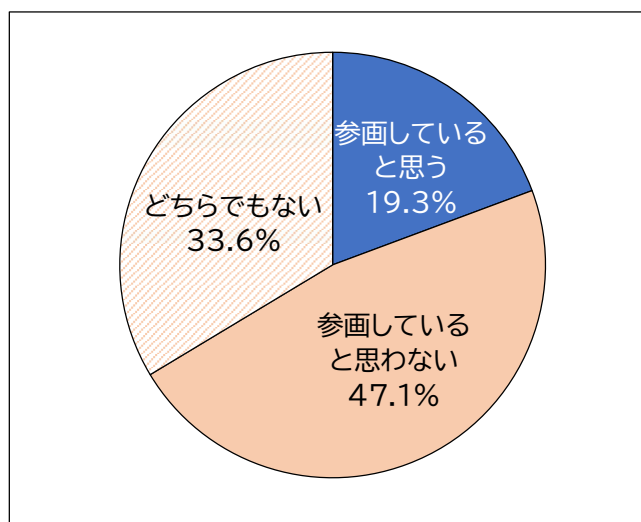
問9 あなたは、外国人県民と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
そう思う	55	23.1
ややそう思う	93	39.1
あまりそう思わない	54	22.7
そう思わない	25	10.5
わからない	11	4.6
合計	238	100.0



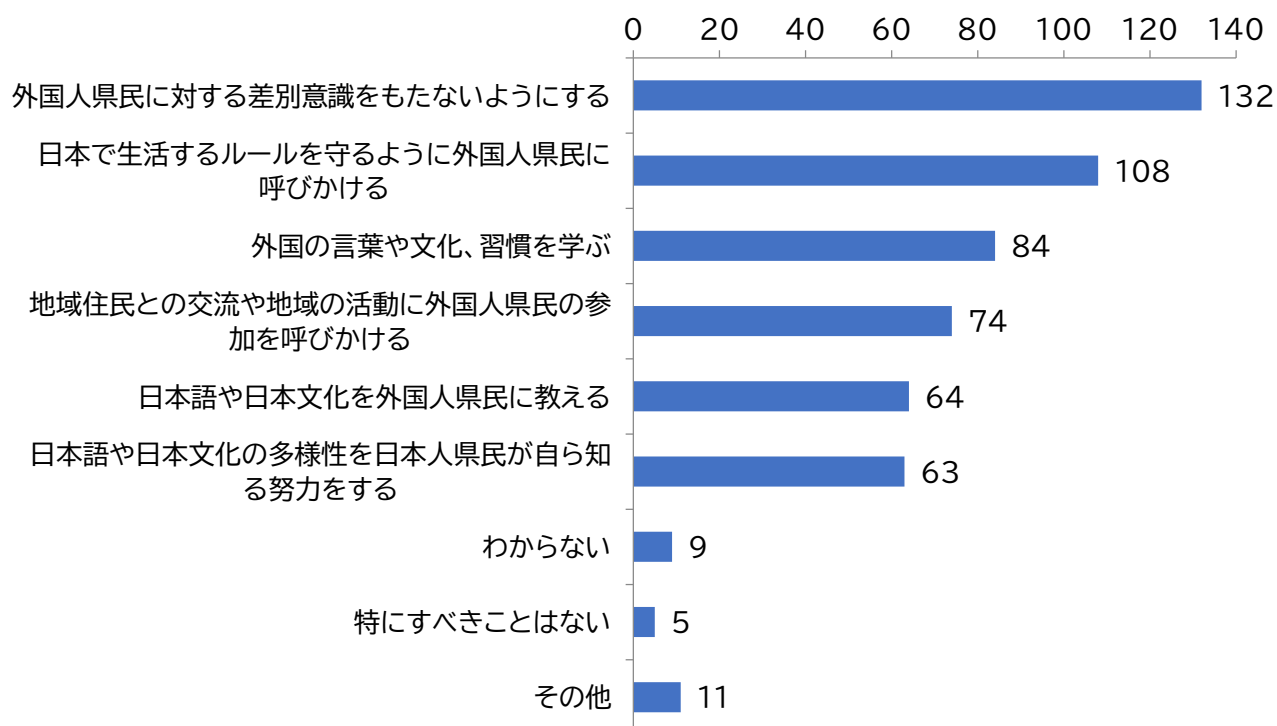
問10 あなたは、外国人県民が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、学校でのPTA活動、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
参画していると思う	46	19.3
参画していると思わない	112	47.1
どちらでもない	80	33.6
合計	238	100.0



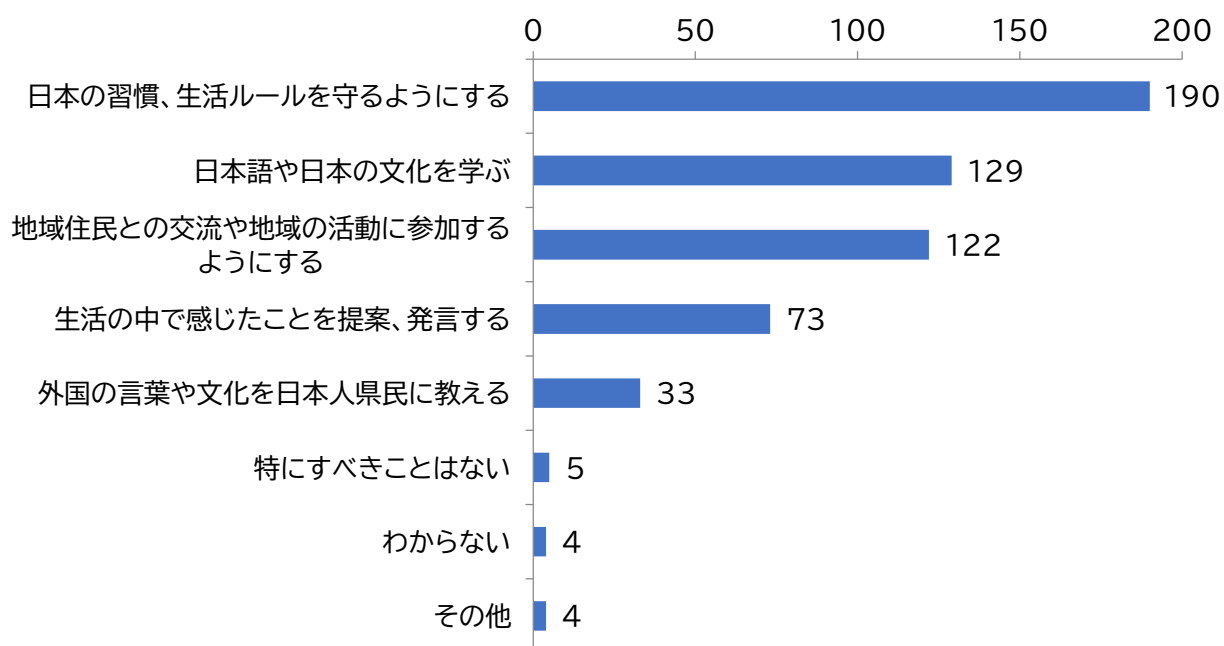
問11 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「日本人県民」は何をすべきだと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
外国人県民に対する差別意識をもたないようにする	132	55.5
日本で生活するルールを守るように外国人県民に呼びかける	108	45.4
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	84	35.3
地域住民との交流や地域の活動に外国人県民の参加を呼びかける	74	31.1
日本語や日本文化を外国人県民に教える	64	26.9
日本語や日本文化の多様性を日本人県民が自ら知る努力をする	63	26.5
わからない	9	3.8
特にすべきことはない	5	2.1
その他	11	4.6



問12 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、「外国人県民」は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=238)

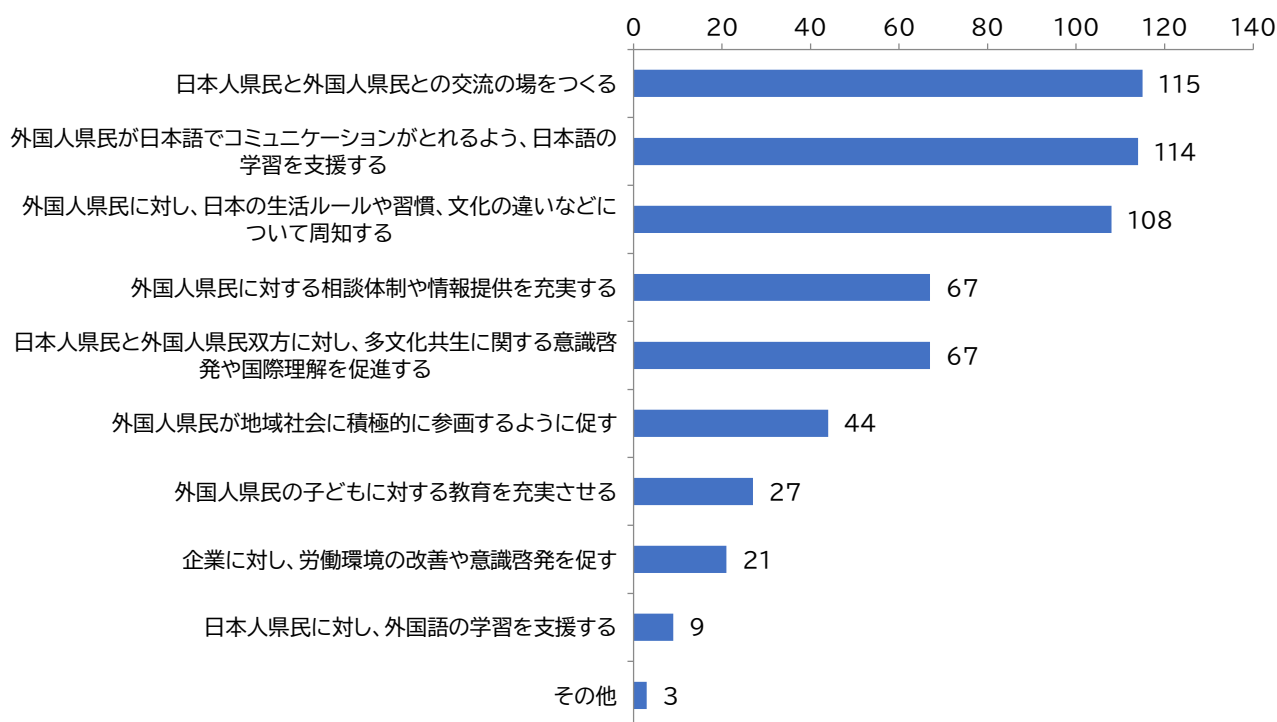
項 目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	190	79.8
日本語や日本の文化を学ぶ	129	54.2
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	122	51.3
生活の中で感じたことを提案、発言する	73	30.7
外国の言葉や文化を日本人県民に教える	33	13.9
特にすべきことはない	5	2.1
わからない	4	1.7
その他	4	1.7



問13 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし、活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

(回答チェックは3つまで。 n=238)

項 目	人数(人)	割合(%)
日本人県民と外国人県民との交流の場をつくる	115	48.3
外国人県民が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	114	47.9
外国人県民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	108	45.4
外国人県民に対する相談体制や情報提供を充実する	67	28.2
日本人県民と外国人県民双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	67	28.2
外国人県民が地域社会に積極的に参画するように促す	44	18.5
外国人県民の子どもに対する教育を充実させる	27	11.3
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	21	8.8
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	9	3.8
その他	3	1.3



問14 外国人県民と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、その内容をお聞かせください。(抜粋)

- ・ベトナムの方が、困っておられる時、初めてスマホの翻訳アプリを使った。最初操作にとまどったが、なんとか意思の疎通ができた。
- ・教員として日本語がほとんどできない子どもに関わったとき、本当にどう関われば良いのか戸惑った。最低限の言葉として「トイレは？」と尋ねられるようにするのが精一杯だった。今は通訳等支援があると思うが、時間が限られているのではないか。支援策がないままで学校に来ることが、本当に子どもの学ぶ機会を作ることになるのか疑問だった。
- ・近くの河原で、地面で直接火を燃やして BBQ をしていたので注意したが理解が難しいようだった。
- ・言語の壁は大きく、なかなか言葉が伝わらないことがありましたが、一生懸命身振り手振りで話すことで、伝わっているように感じます。お互いに歩み寄る気持ちが大事だと思います。
- ・言語はコミュニケーションツールなので日本語にこだわる必要はないと思います。私は日本語、英語、韓国語、中国語を話しますが、それでもコミュニケーションが難しいときもあります。大切なのは理解しようとする、わかってもらえるよう努力することです。
- ・言葉の壁はあったが、顔を見て誠意があればジェスチャーなどで伝わっていき、かえって親近感を持ったことがある。
- ・仕事上対応しなければならない時があったが、英語が聞き取れてもこちらが話すことができないので、翻訳に頼りながらなんとかした。英語以外の言語の場合もあり、その時は双方翻訳に頼るしかなかった。
- ・子育てに悩んで、声をあげている母親がいました。ジェスチャーで大丈夫ですかと伝えようと努力しましたが通じずに、自分の力のなさに、悲しくなりました。
- ・滋賀県内では外国の方との交流はありませんが、県を出ると、道を聞かれたりする事があります。片言ですが、スマホを利用しながら、返答したりして、もう少し話せると良いなと思う反面、日本語を話してくれると良いなとも思いました。

- ・自身は販売の仕事をしている。外国人県民の方が買いに来られたときにうまくコミュニケーションが取れなかったことがある。ただ相手の方が翻訳アプリを駆使して質問をしてくださったのでなんとか喜んで商品を買っていただけたということがつい先日あった。
- ・笑顔で頷いてくれていたので、伝わっていると思ったら伝わっていなかった。
- ・職場が病院なので、体調を悪くされた外国人が来られます。雇用主と一緒に来てくれる会社と外国人のみで来られる会社があります。体調を伝えるのは言葉の違いもあり大変難しいことだと思いますし、薬の服用方法など普段使わない日本語を理解するのも大変だと思います。安心して生活できるように様々な支援があればいいなと思います。
- ・職場で外国人と接することが多いが、日本語の理解力の低さのためコミュニケーションがとれないことが多い。また、長く日本に住んでいる人も、日本語を覚えようという気持ちを感じられない。日本に住む以上は、日本語を学び日本の文化を理解する努力は必要だと思う。
- ・人命救助の時の言葉の壁が大変。
- ・昔、中国籍の子供の担任をしたことがある。お母さんは、配布されたプリントの内容が分からず困っておられるようだったが、子供がお母さんをカバーしていた。他にも言語をカバーしてくださるボランティアの方がおられた。彼女は医者か、大学の教授の高学歴の方だったと思う。
- ・昔仕事で外国人と仕事をしましたが、相手が日本語の細かい意味が理解出来無い為意思の疎通に苦労しました。
- ・注文された商品の在庫がなく、類似した違う商品を説明して理解してもらうのが大変だった。仕事のシステム上、電話でのやり取りだったので難しかった。
- ・道を聞かれて会話が成立せず困ったことがある。
- ・特になし。近隣の方は日本語が話せるし、大学や大学院では、英語で会話するかもしれない、相手が日本語を話せるから。
- ・日本人と外国人のご近所づきあいの考え方の違いがわからない事が多い。

問 15 その他、日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・①外国人県民の子女が公立の幼稚園・保育所・学校で十分なサポートを受けられるように支援することが必要だと考えます。②外国人県民のサポートのためのオンラインサービスをしてはどうでしょうか。いつでもどんなことでも相談できるシステムを作り、人手が足りなければ相談窓口のボランティアは、家庭にいて時間のある主婦やシニアなどたくさんいると思います。③困っている外国人県民がいたら、お手伝いしたい気持ちはあるのですが、身近で知り合う機会がありません。もっと身近で触れ合える機会があればよいなと思います。外国人ママさんとお話する NPO の活動に参加してみるのですが、外国人の方の参加がほとんどありません。
- ・お互いに理解し合えるような、交流の場があることは必須だと思います。また、日本、あるいは地域のルールがわからず、トラブルになることも多いと思うので、外国人の方がそうした情報を気軽に入手できる方法を提供することは重要です。地域の図書館や公民館が、そうした情報や交流の場を設定できるようにすると、利用時間も長く気軽に利用できるのではないかと思います。特に図書館における多文化支援(例えば、外国語の本や情報などの提供)が重要だと感じています。
- ・しっかりしたイベントをしなくとも、井戸端会議みたいなコミュニケーションを取ることができればいいと思う。かしこまって集まり、改めて会議みたいに話合う必要ななく、普段の生活で日本人と外国人がコミュニケーションを取れたらいいのに、と思う。
- ・ムスリムの方々を非難するわけではありませんが、宗教の問題に目をそらすわけにはいきません。ハラールにより、一緒に食事をするのが、一般の庶民間では困難です(食器も共有できない)。土葬問題もあります。具体的に隣人になれば乗り越えることはできるのでしょうか、そうでない場合の心理的ハードルは高いと思います。行政や法律はどう対処していくのか気がかりです。
- ・一つ、悪質な労働環境を撲滅すること(日本側)。二つ、考え方を共有化できるように両方が「本音の語り」をして理解しあうこと(両者)。三つ、子供が孤立しないように文化、言葉の支援をすること(行政)。優先して行うことは、日本人と外国人県民で「本音の語らい」を行う場を設けることです。特に困りごとを吐き出し、それはなぜなのかと分析をすることで課題が明確化していきます。課題は関係者で分担し解決していきます。語りをすることで、ガス抜きができ信頼関係を作ります。うまくいかないのは、信頼関係がないからです。育った文化の違う人が共に生活するには「本音の語らい」が効果的です。

- ・一般常識レベルでは、国籍・民族に関わらず共に地域社会を盛り上げていければいいなあと、私は思っていますし、近隣の人たちも同様の意識の方が多いただろうと思います。しかし実際の場面においては、明らかに外国人と思わしき人たちが数人でもたむろしていると、遠回りをするとか、足早に去るとか避けようとする行動に出してしまいます。きっと、そんな相手とも一緒に作業したり、片言でも言葉を交わしたりしたら、すぐに打ち解けるような気もしますが、残念ながら今の私の状況ではそんな機会はないかもしれません。でも、滋賀でがんばっておられる外国人さん(たとえばウクライナ難民)の紹介を多く見聞きしていくうちに、少しはマシになるかと思います。悪事のニュースではなく。
- ・外国の方が安心して暮らせるよう、日本語や日本、地域の文化習慣を学ぶ場をもっと提供してほしい。特に子供達が学校で困らないよう、支援が必要。些細なことでも相談できる窓口やチューター制度があると良いと思う。日本人県民も外国の方々について正しく学び、彼らを助ける気持ちが必要だと思う。そのための学びの場があると良い。
- ・外国人県民が、郷に入ったら郷に従えの考えのもとルールを守るべき。ルールを守れない人は自国に帰ることも検討していただきたい。ルールを守り、日本人文化を壊さないならば共生の道はあるだろうが、日本人が何かを著しく変えることは日本国民にとってアイデンティティを失わせることにも繋がるので、安易な共生はできないと思う。日本人中心のルールをもとに、外国人の決め事があるべき。
- ・外国人県民が滋賀で暮らす背景は様々だと思う。仕事であったり、社会的背景があったり、在日コリアンのように時代的な背景があったり。それぞれの背景を知る機会があれば外国人県民に対する理解が深まる人も増えるのではないかな。講演会などもよいが、県広報誌に掲載するとか、NHK滋賀で取り上げるとか、小さな取り扱いでいいから取り扱う機会が増えると良いと思う。
- ・近年の外国人に対するイメージは良いものではないと感じる。全ての人がそうではないとわかっているが、どうしても悪いイメージの方が頭に残りやすい。日本人としては相手の文化、習慣を理解する必要があるが、外国人がそもそも日本のルールを守り、順応する姿勢を取らなければ、多くの人に受け入れてもらうのは難しいのではないかなと思う。地域や職場などでの関わりの中や、行政からの働きかけで、日本ではこうする、自国ではこうであるというのを、日本人、外国人双方に教えていくのが重要だと思う。

- ・県民としてきてくれた時に、役所などからイラストの冊子を渡し、最低限の日本のマナーを伝えたいと思っています。いくつかの言語で文字も入れられたら。「お家でのパーティーはいいけど、家の外に出たら大声はやめよう。」「友達の家に来た時に、インターホン代わりにクラクションを鳴らして住人を呼ばないようにしよう。時間により近所の人迷惑します。」「車の改造は程々にして、爆音で走らせたりふかしたりするのは、近所迷惑なのでやめましょう。」「団地内はできればスピードを落として走行しましょう。」など、最低限のマナーだけでいいです。知らなくてしているのなら、外国の方もかわいそうだし、近所の人伝えようと思うと、トラブルになりそうだったり、言葉がわからなかったりするるので、引っ越してきた時点をお願いしたいです。
- ・昨今外国人による犯罪が多発しているので、県や警察はそういった外国人犯罪者に対する取り締まりを強化し、日本人が安心して暮らしていけるようにして欲しい。また、日本に来た外国人は日本の生活に合わせるべきである。県や自治体には毅然とした態度を取って貰いたい。外国人を排除するのではなく、日本に合わせて常識ある生活をして貰えればお互いに安心して生活できると思う。
- ・滋賀県には、外国人が多いため、日本語教員の養成を行う必要がある。また、外国人の子どもには、個別に日本語を教え、その家族には、地域で日本語でのコミュニケーションができるように支援する必要がある。病院や官公庁には通訳がいることもありますが、アプリの使用を積極的に行い、学校や生活の場などほかの交流の場での困難に対する対策を更に充実させる必要がある。学校では、いじめや、仲間外れなど、子どもが困難に陥ることも想定されるため、その対策も必要である。例えば、市町で、週に何回か、集まって、日本語の学習をし、外国人の子ども同士の交流も行ない、教員も交流し、困難を共有すると良いのではと思う。地域交流に対しては、近隣の方の無理解による生活困難も予測されるため、その対策も必要である。
- ・小さい頃(小学生)から外国人と自然に接する機会を設ける。
- ・職場のお客様にも沢山おられるし、家の前の住民も外国人の方なので日常的にふれあい過ごしています。みなさん、それなりに日本語を話そうとされるのに、日本人の私たちが苦手意識が高いので、腫れ物に触るような接し方になっているのはおかしいなと思います。なんとか、日本人の方が社交的にプラスにはたらくような地域になってほしいです。

- ・親と話をしていると、私たちの親世代は特に、何か事故や事件、トラブルなどがあったときに「やっぱり外国人は…」という意識をもってしまいがちだなと思うことがあります。私たち自身もそういった意識はついってしまうこともあるかもしれません。これから自分の子どもが幼稚園、小学校と進学するにつれて、外国人県民の方とのかかわりの機会も増えるかもしれません。うまくコミュニケーションがとれるかどうか、正直不安な気持ちもあります。そのような場面でお互いが嫌な思いをすることがないように、外国人県民の方へのサポートはもちろん、日本人県民も何か不安に思ったときに安心して相談できる窓口が周知されていると良いなと思います。
- ・人材人手不足(特に介護、福祉関係)の改善のため、積極的に外国人を受け入れるべきだと思う。
- ・日本には暗黙のルールが多くあり、島国特有の閉塞的な考え方も多く残っているため、外国から来た方々は生活しづらいことも多いかと思います。外国人の方も日本人も双方が理解しあえるよう努力すること、向き合うことが大切だと思っています。友人の話で、近所に転居されてきた中国人の夫婦の方々が、回覧板の回覧をなかなか回してくれないと困っていました。何度もその家でストップしてしまうのだとか。回覧板という風習になじみがないのだと思います。ただ、1 年ほどすれば、スムーズに回してくれるようになったそうです。わかりにくい地域のルールや風習を気軽に相談できたり、説明してもらえるような窓口があれば、もっと早くにその中国人の方々も問題なく地域の生活になじめたのかもしれないと感じます。
- ・日本人外国人関係なくサポート出来る窓口が分かりやすい方が良いと思います。日本人でも行政の活動も分からないし、ホームページに載せただけで告知出来たと思わないで欲しいです！みんなに伝えるにはどうしたらいいかを考えて欲しいです。
- ・日本人県民と外国人県民、もちろんどちらもが共に安心して暮らせる社会が理想ではあるが、本当の意味で共生ができると日本人県民が心から思えるまでは、県や市長を含む行政はいつまでも日本人県民ファーストのスタンスであってほしいと願っています。いち滋賀県と外国にルーツをもつ滋賀県民として、そこがどこであろうと外からやってきた者は「郷に入っては郷に従え」の意識を強く持つべきだと本当に思います。